

北九州市立八幡病院救急科

エキスパート研修プログラム

2017年6月

## 北九州市立八幡病院救急科エキスパート研修プログラム

### (目 次)

1. 北九州市立八幡病院救急科エキスパート研修プログラムについて
2. 救急科専門研修の方法
3. 救急科専門研修の実際
4. 専攻医の到達目標(修得すべき知識・技能・態度など)
5. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
6. 学問的姿勢について
7. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて
8. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方
9. 年次毎の研修計画
10. 専門研修の評価について
11. 研修プログラムの管理体制について
12. 専攻医の就業環境について
13. 専門研修プログラムの改善方法
14. 修了判定について
15. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと
16. 研修プログラムの施設群
17. 専攻医の受け入れ数について
18. サブスペシャルティ領域との連続性について
19. 救急科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
21. 専攻医の採用と修了
22. 応募方法と採用

## 1. 北九州市立八幡病院救急科エキスパート研修プログラムについて

### ① 理念と使命

救急医療では医学的緊急性への対応、すなわち患者が手遅れとなる前に診療を開始することが重要です。しかし、救急患者が医療にアクセスした段階では緊急性の程度や罹患臓器も不明なため、患者の安全確保には、いずれの緊急性にも対応できる専門医が必要になります。そのためには救急搬送患者を中心に診療を行い、急病、外傷、中毒など原因や罹患臓器の種類に関わらず、すべての緊急性に対応する救急科専門医が国民にとって重要になります。

本研修プログラムの目的は、「地域住民に救急医療へのアクセスを保障し、良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成することです。本研修プログラムを修了した救急科専門医は、急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを修得することができるようになります。また急病で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合、あるいは外傷や中毒など外因性疾患の場合は、初期治療から継続して根本治療や集中治療においても中心的役割を担うことが可能となります。さらに地域ベースの救急医療体制、特に救急搬送(プレホスピタル)と医療機関との連携の維持・発展、加えて災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事を担うことも可能となります。

救急科専門医の社会的責務は、医の倫理に基づき、急病、外傷、中毒など疾病の種類に関わらず、救急搬送患者を中心に、速やかに受け入れて初期診療に当たり、必要に応じて適切な診療科の専門医と連携して、迅速かつ安全に診断・治療を進めることにあります。さらに、救急搬送および病院連携の維持・発展に関与することにより、地域全体の救急医療の安全確保の中核を担うことが使命です。

### ② 専門研修の目標

専攻医のみなさんは本研修プログラムによる専門研修により、以下の能力を備えることができます。

- 1) 様々な傷病、緊急度の救急患者に、適切な初期診療を行える。
- 2) 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断できる。
- 3) 重症患者への集中治療が行える。
- 4) 地域の中核病院として、1次から3次までの小児救急診療を24時間365日提供する小児救急センターや、救命センター内に常時当直待機している脳神経外科、市内で2カ

所しかない形成外科など外科系、外傷系救急医療に強い特色を生かしながら、他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めることができる。

- 5) 当院のドクターカー出動を通して、病院前診療を行える。
- 6) 病院敷地内にある常設型の北九州市消防局救急ワークステーションと連携し、救急車に同乗し、直接的なメディカルコントロールを行いながら、現場で救急救命士の指導を行うことができる。
- 7) 災害医療センターとして、統括DMATを3名有し、地域の災害医療の中核病院として指導的立場を發揮できる。
- 8) 救急診療に関する教育指導が行える。
- 9) 救急診療の科学的評価や検証が行える。
- 10) プロフェッショナリズムに基づき最新の標準的知識や技能を継続して修得し能力を維持できる。
- 11) 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える。
- 12) 救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を確保できる。

## 2. 救急科専門研修の方法

専攻医のみなさんには、以下の3つの学習方法によって専門研修を行っていただきます。

### ① 臨床現場での学習

経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医のみなさんに広く臨床現場での学習を提供します。

- 1) 救急診療での実地修練 (on-the-job training)
- 2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス
- 3) 抄読会・勉強会への参加
- 4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得

### ② 臨床現場を離れた学習

国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会およびJATEC、JPTEC、MCLS、ICLS (AHA/ACLS を含む) コースなどの off-the-job training course に積極的に参加していただきます (参加費用の一部は研修プログラムで負担いたします)。また、救急科領域で必須となっている

ICLS(AHA/ACLS を含む)コースが優先的に履修できるようにします。救命処置法の習得のみならず、優先的にインストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学んでいただきます。また、研修施設もしくは日本救急医学会やその関連学会が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも1回は参加していただく機会を用意いたします。

### ③ 自己学習

専門研修期間中の疾患や病態の経験値の不足を補うために、日本救急医学会やその関連学会が準備する「救急診療指針」、e-Learning などを活用した学習を病院内や自宅で利用できる機会を提供します。

## 3. 研修プログラムの実際

本プログラムでは、救急科領域研修カリキュラム(添付資料)に沿って、経験すべき疾患、病態、検査・診療手順、手術、手技を経験するため、基幹研修施設と複数の連携研修施設での研修を組み合わせています。

基幹領域専門医として救急科専門医取得後には、サブスペシャリティ領域である外傷外科、小児救急、集中治療医学領域専門研修プログラムに進んで、救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も選択が可能です。また本専門研修プログラム管理委員会 は、基幹研修施設である北九州市立八幡病院の初期臨床研修管理センターと協力し、大学卒業後2年以内の初期研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた初期研修プログラム作成にもかかわっています。

① 定員:2名/年

② 研修期間:3年間

③ 出産、疾病罹患等の事情に対する研修期間についてのルール

「項目19. 救急科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件」をご参照ください。

④ 研修施設群

本プログラムは、研修施設要件を満たした下記の7施設によって行います。

1) 北九州市立八幡病院救急科(基幹研修施設)

- (1) 救急科領域の病院機能:三次救急医療施設(救命救急センター)、災害拠点病院、災害医療研修センター、地域メディカルコントロール(MC)協議会中核施設、小児救急センター
- (2) 指導者:救急科専門医4名、その他の専門診療科専門医師(小児救命センター長をはじめ、各診療科主任部長10名)
- (3) 救急車搬送件数 : 3,429件/年
- (4) 救急外来受診者数 : 35,061 人
- (5) 研修部門:救命救急センター(救急室、集中治療室、救命救急センター病棟)
- (6) 研修領域と内容
  - i.救急室における救急外来診療(クリティカルケア・重症患者に対する診療含む)
  - ii.外傷外科、外科的・整形外科的救急手技・処置
  - iii.重症患者に対する救急手技・処置
  - iv.集中治療室、救命救急センター病棟における入院診療
  - v.救急医療の質の評価・安全管理
  - vi.地域メディカルコントロール(MC)
  - vii.災害医療
  - viii.北九州市消防局救急ワークステーションと連携した病院前診療
- (7) 研修の管理体制:救急科領域専門研修管理委員会による
- (8) 給与:基本給 1年目 350,000 円、2年目 400,000 円、3年目 500,000 円
- (9) 身分:常勤嘱託(後期研修医)
- (10) 勤務時間:8:30-17:00
- (11) 社会保険:健康保険、厚生年金保険、雇用保険を適用
- (12) 宿舎:なし
- (13) 専攻医室:専攻医専用の設備はないが、救命救急センター内に個人スペース(机、椅子、棚)が充てられる。
- (14) 健康管理:年2回。その他各種予防接種
- (15) 医師賠償責任保険:各個人による加入を推奨
- (16) 臨床現場を離れた研修活動:日本救急医学会、日本救急医学会地方会、日本臨床救急医学会、日本集中治療医学会、日本集中治療医学会地方会、日本外傷学会、日本中毒学会、日本熱傷学会、日本集団災害医学会、日本病院前診療医学会など救急医学・救急医療関連医学会の学術集会への1回以上の参加ならびに報告を行う。旅費は全額支給。

(17) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
8	手術後 カンファ	救命 センター 会議	スタッフ ミーティング		抄読会		
	当直申し送り、救急入院患者カンファ						
9	診療(救急外来、ドクターカー勤務、集中治療室、救急病棟、各種検査室、手術室)						
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	退院 カンファ	症例検討会	手術前 カンファ	災害研修会	救急ワーク ステーション カンファ		

2) 北九州市立医療センター(関連施設)

- (1) 救急科領域関連病院機能: 二次救急医療機関、災害拠点病院
- (2) 指導者: 専門診療科医師(麻酔科8名、産婦人科3名、総合診療科1名)
- (3) 救急車搬送件数 : 1,454件/年
- (4) 救急外来受診者数 : 4,180人/年
- (5) 研修部門: 救命救急センター(集中治療部)
- (6) 研修領域と内容
  - i. 救急室における救急診療(クリティカルケア・重症患者に対する診療含む)
  - ii. 中央手術部における循環・呼吸・輸液管理
  - iii. 重症患者に対する救急手技・処置
  - iv. 集中治療部における入院診療
- (7) 施設内研修の管理体制: 臨床研修管理委員会による
- (8) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
8	スタッフミーティング			抄読会	スタッフミーティング		
9	当直申し送り、前日振り返り						
10	診療(救急室、病棟、各種検査、手術部、集中治療部)						
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	スタッフミーティング						



3)小倉記念病院(連携施設)

- (1) 救急科領域関連病院機能:二次救急医療機関
- (2) 指導者:救急科指導医1名、専門診療科医師(循環器内科科33名、心臓血管外科12名)
- (3) 救急車搬送件数 : 4,713件/年
- (4) 救急外来受診者数 : 9,118人/年
- (5) 研修部門:救命救急センター(救急室、集中治療室、病棟)
- (6) 研修領域と内容
  - i .救急室における救急診療(クリティカルケア・重症患者に対する診療含む)
  - ii .循環器内科、心臓血管外科的救急手技・処置
  - iii .重症患者に対する救急手技・処置
  - iv .集中治療室における入院診療
- (7) 施設内研修の管理体制:救急科領域専門研修管理委員会による
- (8) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
8	申し送り			医局 フォーラム	申し送り	当直・当番 日以外は 休日	
9	当直申し送り、前日振り返り						
10	救急診療 救急搬送および外来受診への対応病棟業務・処置(救急病棟、 HCUなど) (適宜、昼食・休憩時間を含む)						
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	当直帯への引継ぎ						
18							
19							
20							

4) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院(連携施設)

- (1) 救急科領域関連病院機能: 三次救急医療機関、災害拠点病院
- (2) 指導者: 救急科指導医1名、専門診療科医師(救急総合診療科5名: 救急専門医4名)
- (3) 救急車搬送件数 : 4,564件/年
- (4) 救急外来受診者数 : 18,000人/年
- (5) 研修部門: 救急外来(救急室、集中治療室、病棟)
- (6) 研修領域と内容
  - i .救急室における救急診療(クリティカルケア・重症患者に対する初期診療含む)
  - ii .心臓血管外科的救急手技・処置
  - iii .重症患者に対する救急手技・処置
  - iv .集中治療室における入院診療
  - v .産婦人科的救急手技・処置
- (7) 施設内研修の管理体制: 救急科領域専門研修管理委員会による
- (8) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
8	カンファレンス(前日の振り返り、問題症例など)						
9	診療(救急外来、病棟、各種検査、手術室)						
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17					ERカンファ ER画像 カンファ ※それぞれ1回/月		

5) 独立行政法人 労働者健康安全福祉機構 九州労災病院(連携施設)

- (1) 救急科領域関連病院機能: 二次救急医療機関
- (2) 指導者: 救急科指導医1名、専門診療科医師(救急科1名、整形外科21名、産婦人科3名)
- (3) 救急車搬送件数 : 2,910件/年
- (4) 救急外来受診者数 : 9,885人/年
- (5) 研修部門: 救急室、集中治療室、希望に応じて各診療科での専門研修も兼ねる
- (6) 研修領域と内容
  - i. 救急室における救急診療(クリティカルケア・重症患者に対する診療含む)
  - ii. 整形外科的救急手技・処置
  - iii. 重症患者に対する救急手技・処置
  - iv. 集中治療室における入院診療
  - v. 希望に応じて各診療科での診療補助(産科救急など)
- (7) 施設内研修の管理体制: 救急科領域専門研修管理委員会による
- (8) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
8			抄読会 (自由参加)	研修医 勉強会	研修医 講演		
9	当直申し送り、ICU入院患者カンファ						
10	午前中はICUで入院患者の管理と指示を行い、ICUが落ち着き次第、救急外来で急患対応を行う。 ただし、重症患者がいる際は日勤帯であれば午前午後を問わずER、ICUで臨機応変に対応する。 ※休憩時間45分含む					※土日は基本的に休日とするが、重症患者を受け持っている場合は交代制で治療に当たることある	
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	救急患者 カンファ	救急患者 カンファ		救急患者 カンファ	救急患者 カンファ		

6)社会医療法人 陽明会 小波瀬病院(連携施設)

- (1) 救急科領域関連病院機能:二次救急医療機関、災害拠点病院
- (2) 指導者:救急科指導医1名、専門診療科医師(救急科2名、集中治療部5名)
- (3) 救急車搬送件数 : 2,391件/年
- (4) 救急外来受診者数 : 6,462人/年
- (5) 研修部門:救命救急科(救急室、集中治療室、手術室)
- (6) 研修領域と内容
  - i.救急室における救急診療(クリティカルケア・重症患者に対する診療含む)
  - ii.外傷外科的救急手技・処置
  - iii.重症患者に対する救急手技・処置
  - iv. 地域医療
- (7) 施設内研修の管理体制:救急災害対策委員会による
- (8) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
8	救急入院患者カンファレンス						
9	救急診療(救急室、ドクターカー、ラピッドカー、集中治療室診療)					緊急手術 研修	
10							
11							
12							
13							
14	上記診療加え、外科・脳外科・整形外科手術および緊急手術 研修、麻酔管理研修						
15							
16							
17							
18	1日の振り返り						

7)産業医科大学病院(連携施設)

- (1) 救急科領域関連病院機能:三次救急医療機関、災害拠点病院
- (2) 指導者:救急科指導医6名、専門診療科医師(救急科1名、集中治療部4名)
- (3) 救急車搬送件数 : 3,780 件/年
- (4) 救急外来受診者数 : 9,590 人/年
- (5) 研修部門:救命救急科(救急外来、集中治療室、病棟)
- (6) 研修領域と内容
  - i .救急室における救急診療(クリティカルケア・重症患者に対する 診療含む)
  - ii .外傷外科的救急手技・処置
  - iii.重症患者に対する救急手技・処置
  - iv.集中治療室における入院診療
  - v .EBM の実践
  - vi.臨床研究の実践
- (7) 施設内研修の管理体制:救急科領域専門研修管理委員会による
- (8) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
7:30			輪読会			当番以外 は原則休 日	
8:00	救急外来、入院患者カンファレンス						
9:30	回診						
	救急外来、病棟対応		抄読会、 リサーチ カンファレンス		救急外来、 病棟対応		
12:00	適宜、昼食						
13:45	救急外来、病棟対応		病棟 カンファレンス		救急外来、 病棟対応		
17:00	救急外来、入院患者カンファレンス						

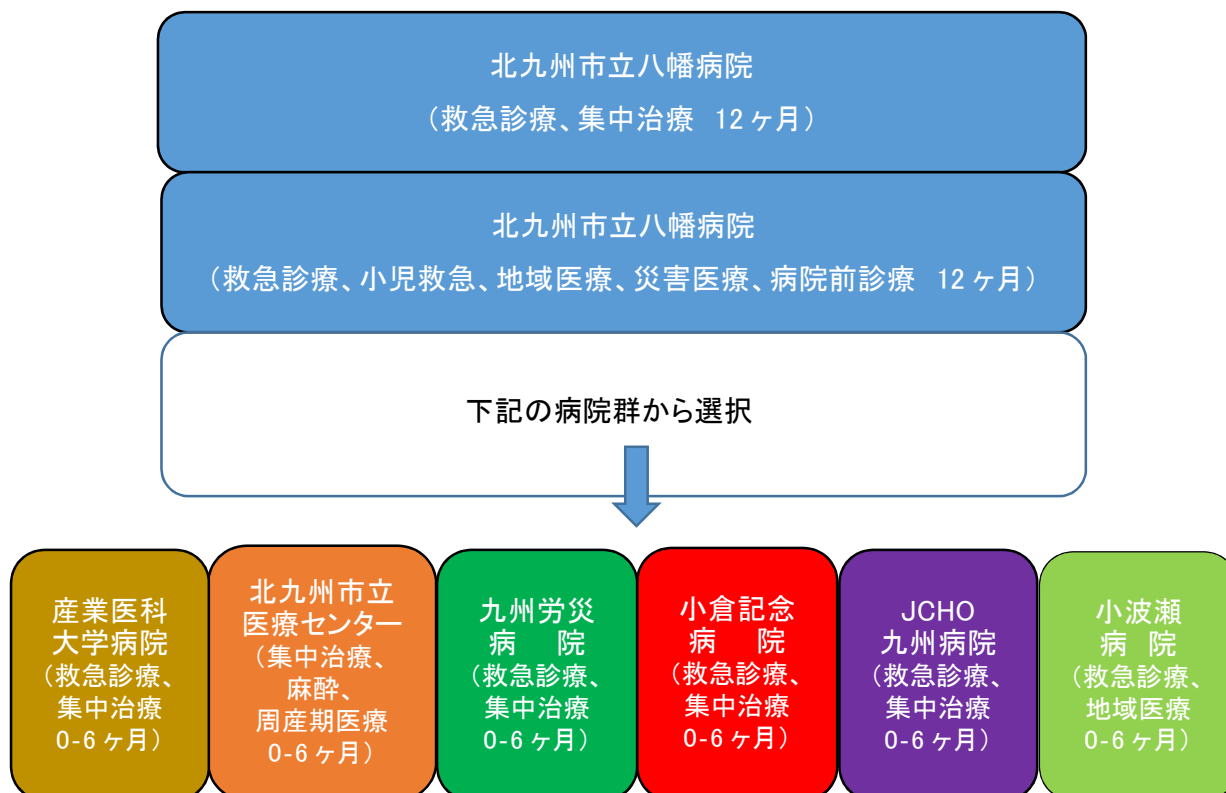
救急科領域の専門研修プログラムでは、医師としてのコンピテンスの幅を広げるために、最先端の医学・医療を理解することおよび科学的思考法を体得することを重視しています。具体的には、専門研修の期間中に臨床医学研究、社会医学研究あるいは基礎医学研究に直接・間接に触れる機会を持つことができるように、研修施設群の中に臨床研究あるいは基礎研究を実施できる体制を備えた施設を含めています。

#### ⑤ 研修プログラムの基本モジュール

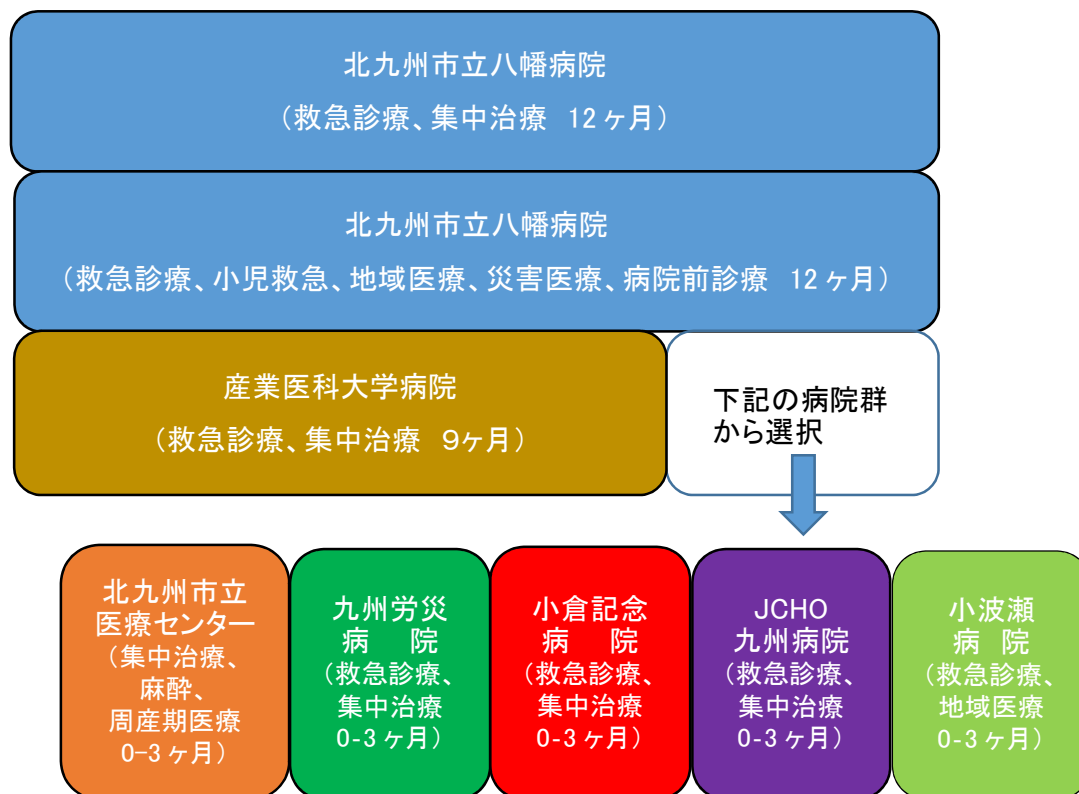
研修領域ごとの研修期間は、基幹病院で救急室での救急診療(クリティカルケア含む)、集中治療部門、小児救急、災害医療、病院前診療、地域医療を指導医のもとで24ヶ月研修します。残りの12ヶ月は、救急科領域研修カリキュラム(添付資料)に沿って、経験すべき疾患、手術、手技を経験するため、いくつかの連携病院の中から3～6ヶ月の研修を1単位として、いくつかの連携病院を選択し、研修していただきます(基本モジュール1)。

また、産業医科大学出身で救急科専門医を目指す専攻医のため、9ヶ月の産業医科大学での研修を必須として、産業医として義務年限を果たせるように配慮した研修プログラムを用意しています(基本モジュール2)。

#### (基本モジュール1)



(基本モジュール2)



#### 4. 専攻医の到達目標(修得すべき知識・技能・態度など)

##### ① 専門知識

専攻医のみなさんは救急科研修カリキュラムに沿って、カリキュラム I からXV までの領域の専門知識を修得していただきます。知識の要求水準は、研修修了時に単独での救急診療を可能にすることを基本とするように必修水準と努力水準に分けられています。

##### ② 専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)

専攻医のみなさんは救急科研修カリキュラムに沿って、救命処置、診療手順、診断手技、集中治療手技、外科手技などの専門技能を修得していただきます。これらの技能は、単独で実施できるものと、指導医のもとで実施できるものに分けられています。

##### ③ 経験目標(種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等)

###### 1) 経験すべき疾患・病態

専攻医のみなさんが経験すべき疾患、病態は必須項目と努力目標とに区分されて

います。救急科研修カリキュラムをご参照ください。これらの疾患・病態は全て、本研修プログラムにおける十分な症例数の中で、適切な指導のもとで経験することができます。

## 2) 経験すべき診察・検査等

専攻医のみなさんが経験すべき診察・検査等は必須項目と努力目標とに区分されています。救急科研修カリキュラムをご参照ください。これら診察・検査等は全て、本研修プログラムにおける十分な症例数の中で、適切な指導のもとで経験することができます。

## 3) 経験すべき手術・処置等

専攻医のみなさんが経験すべき手術・処置の中で、基本となる手術・処置については術者として実施出来ることが求められます。それ以外の手術・処置については助手として実施を補助できることが求められています。研修カリキュラムに沿って術者および助手としての実施経験のそれぞれ必要最低数が決められています。救急科研修カリキュラムをご参照ください。これらの手術・処置等は全て、本研修プログラムにおける十分な症例数の中で、適切な指導のもとで経験することができます。

## 4) 地域医療の経験(病診・病院連携、地域包括ケア、在宅医療など)

専攻医のみなさんは、原則として研修期間中に3ヶ月以上、研修基幹施設あるいは地域の救急医療を担っている連携病院で研修し、周辺の医療施設との病診連携の実験を経験していただきます。また、精神科救急診療の研修のため、基幹病院には精神科の常勤医がおり、また近隣の精神科病院の協力を得られるようになっています。消防組織との事後検証委員会への参加や指導医のもとでのホットラインによる救急救命士への特定行為指示、常設型救急ワークステーションでの救急車同乗による救急救命士への直接的な指導教育、地域におけるメディカルコントロール活動に参加していただきます。

## 5) 学術活動

臨床研究や基礎研究へも積極的に関わっていただきます。専攻医のみなさんは研修期間中に筆頭者として少なくとも1回の専門医機構研修委員会が認める救急科領域の学会で発表を行えるように共同発表者として指導いたします。また、筆頭者として少なくとも1編の論文発表を行えるように共著者として指導いたします。更に、北九州市立八幡病院が参画している外傷登録や心停止登録などで皆さんの経験症例を登録していただきます。



## 5. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

本研修プログラムでは、救急科専門研修では、救急診療や手術での実地修練(on-the-job training)を中心にして、広く臨床現場での学習を提供するとともに、各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得の場を提供しています。

### ① 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス

カンファレンスの参加を通して、プレゼンテーション能力を向上し、病態と診断過程を深く理解し、治療計画作成の理論を学んでいただきます。

### ② 抄読会や勉強会への参加

抄読会や勉強会への参加やインターネットによる情報検索の指導により、臨床疫学の知識やEBMに基づいた救急外来における診断能力の向上を目指していただきます。

### ③ 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した知識・技能の習得

各研修施設内の設備や教育ビデオなどを利用して、臨床で実施する前に重要な救急手術・処置の技術を修得していただきます。臨床現場でも医局の隣に設けられたシミュレーションルームにおける資器材を用いたトレーニングにより緊急病態の救命スキルを修得していただきます。また、病院前診療や災害医療について、基幹研修施設である北九州市立八幡病院が主催するJPTEC、MCLS、PALSコースなどにも参加していただきます。

## 6. 学問的姿勢について

救急科領域の専門研修プログラムでは、医師としてのコンピテンスの幅を広げるために、最先端の医学・医療を理解することおよび科学的思考法を体得することを重視しています。本研修プログラムでは、専攻医の皆さんは研修期間中に以下に示す内容で、学問的姿勢の実践を図っていただけます。

- ① 医学、医療の進歩に追随すべく常に自己学習し、新しい知識を修得する姿勢を指導医より伝授します。
- ② 将来の医療の発展のために基礎研究や臨床研究にも積極的に関わり、カンファレンスに参加してリサーチマインドを涵養していただきます。
- ③ 常に自分の診療内容を点検し、関連する基礎医学・臨床医学情報を探索し、EBM を実践する指導医の姿勢を学んでいただきます。

- ④ 学会・研究会などに積極的に参加、発表し、論文を執筆していただきます。指導医が共同発表者や共著者として指導いたします。
- ⑤ 更に、外傷登録や心停止登録などの研究に貢献するため専攻医の皆さんの経験症例を登録していただきます。この症例登録は専門研修修了の条件に用いることが出来ます。

## 7. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

救急科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)と救急医としての専門知識・技術が含まれています。専攻医のみなさんは研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できるように努めていただきます。

- ① 患者への接し方に配慮し、患者やメディカルスタッフとのコミュニケーション能力を磨くこと。
- ② 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナルリズム)。
- ③ 診療記録の適確な記載ができること。
- ④ 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- ⑤ 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- ⑥ チーム医療の一員として行動すること。
- ⑦ 後輩医師やメディカルスタッフに教育・指導を行うこと。

## 8. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

### ① 専門研修施設群の連携について

専門研修施設群の各施設は、効果的に協力して指導にあたります。具体的には、各施設に置かれた委員会組織の連携のもとで専攻医のみなさんの研修状況に関する情報を6ヶ月に一度共有しながら、各施設の救急症例の分野の偏りを専門研修施設群として補完しあい、専攻医のみなさんが必要とする全ての疾患・病態、診察・検査等、手術・処置等を経験できるようにしています。併せて、研修施設群の各施設は年度毎に診療実績を救急科領域研修委員会へ報告しています。

### ② 地域医療・地域連携への対応

- 1) 専門研修基幹施設から地域の救急医療機関に出向いて救急診療を行ったり、在宅

医療に携わったり、自立して責任をもった医師として行動することを学ぶとともに、地域医療の実状と求められる医療について学びます。3ヶ月以上経験することを原則としています。

2) 敷地にある常設型救急ワークステーションでの救急車同乗、症例検討や地域のメディカルコントロール協議会に参加し、事後検証などを通して病院前救護の実状について学びます。

### ③ 指導の質の維持を図るために

研修基幹施設、連携施設および関連施設における指導の共有化をめざすために以下を考慮しています。

1) 研修基幹施設が専門研修プログラムで研修する専攻医を集めた講演会やhands-on-seminar などを開催し、教育内容の共通化をはかっています。

2) 更に、日本救急医学会やその関連学会が準備する講演会やhands-on-seminar などの参加機会を提供し、教育内容の一層の充実を図っていただきます。

## 9. 年次毎の研修計画

専攻医のみなさんには、北九州市立八幡病院救急科エキスパート専門研修施設群において、専門研修の期間中に研修カリキュラムに示す疾患・病態、診察・検査、手術・処置の基準数を経験していただきます。年次毎の研修計画を以下に示します。

### ① 専門研修1年目

- ・ 基本的診療能力(コアコンピテンシー)
- ・ 救急診療における基本的知識・技能
- ・ 集中治療における基本的知識・技能
- ・ 病院前救護・災害医療における基本的知識・技能
- ・ 必要に応じて他科ローテーションによる研修

### ② 専門研修2年目、3年目

- ・ 基本的診療能力(コアコンピテンシー)
- ・ 救急診療における応用的知識・技能
- ・ 集中治療における応用的知識・技能
- ・ 病院前救護・災害医療における応用的知識・技能

- ・ 必要に応じて他科ローテーションによる研修
- ・ 経験すべき症例、手技、手術の幅広い研修のため、他の連携病院での研修

救急診療、集中治療、病院前救護・災害医療等は年次に拘らず弾力的に研修します。必須項目を中心に、知識・技能の年次毎のコンピテンシーの到達目標(例 A:指導医を手伝える、B:チームの一員として行動できる、C:チームを率いることが出来る)を定めています。

研修施設群の中で研修基幹施設、研修連携施設および関連施設はどのような組合せと順番でローテーションしても、最終的には指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分に配慮いたします。研修の順序、期間等については、専攻医の皆さんを中心に考え、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、研修基幹施設の研修プログラム管理委員会が見直して、必要があれば修正させていただきます。

また、通常の研修ローテーション(表1)と、産業医科大学出身の専攻医にも配慮したローテーション(表2)の2通りのパターンを、一例として示しています。

(表1 研修施設群ローテーション研修の実際)

施設 類型	指導 医数	施設名	主たる 研修内容	1年目				2年目				3年目			
基幹 研修 施設	2+5/6	北九州市立 八幡病院	救急診療・集中 治療・MC・災害 医療・小児救急	A	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A	A
				B	B	B	B								
2次 救急 医療 施設	0	北九州市立 医療センタ ー	麻酔・集中医療、 周産期医療					A							
2次 救急 医療 施設	0	小倉記念 病院	救急診療・集中 治療、循環器領 域						A	A					
2次 救急 医療 施設	0	独立行政法人 地域医療機 能推進機構 九州病院	救急診療・集中 治療									B	B		
2次 救急 医療 施設	0	独立行政法人 労働者健康 福祉機構 九州労災病院	救急診療、整形 外科領域											B	B



## 10. 専門研修の評価について

### ① 形成的評価

専攻医の皆さんが研修中に自己の成長を知ることは重要です。習得状況の形成的評価による評価項目は、コアコンピテンシー項目と救急科領域の専門知識および技能です。専攻医の皆さんは、専攻医研修実績フォーマットに指導医のチェックを受け指導記録フォーマットによるフィードバックで形成的評価を受けていただきます。指導医は臨床研修指導医養成講習会もしくは日本救急医学会等の準備する指導医講習会などで身につけた方法を駆使し、みなさんにフィードバックいたします。次に、指導医から受けた評価結果を、年度の間と年度終了直後に研修プログラム管理委員会に提出していただきます。

研修プログラム管理委員会はこれらの研修実績および評価の記録を保存し総括的評価に活かすとともに、中間報告と年次報告の内容を精査し、次年度の研修指導に反映させます。

### ② 総括的評価

#### 1) 評価項目・基準と時期

専攻医のみなさんは、研修終了直前に専攻医研修実績フォーマットおよび指導記録フォーマットによる年次毎の評価を加味した総合的な評価を受け、専門的知識、専門的技能、医師として備えるべき態度、社会性、適性等を習得したか判定されます。判定は研修カリキュラムに示された評価項目と評価基準に基づいて行われます。

#### 2) 評価の責任者

年次毎の評価は当該研修施設の指導責任者および研修管理委員会が行います。専門研修期間全体を総括しての評価は専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

#### 3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、知識、技能、態度それぞれについて評価を行われます。修了判定には専攻医研修実績フォーマットに記載された経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術・処置等の全ての評価項目についての自己評価および指導医等による評価が研修カリキュラムに示す基準を満たす必要があります。

#### 4) 他職種評価

特に態度について、看護師、薬剤師、診療放射線技師、MSW 等の多職種のメディカルスタッフによる専攻医のみなさんの日常臨床の観察を通じた評価が重要となります。看護師を含んだ2名以上の担当者からの観察記録をもとに、当該研修施設の指

導責任者から各年度の間と終了時に専攻医研修マニュアルに示す項目の形成的評価を受けることになります。

## 11. 研修プログラムの管理体制について

専門研修基幹施設、専門研修連携施設および専門研修関連施設が、専攻医の皆さんを評価するのみでなく、専攻医の皆さんによる指導医・指導体制等に対する評価をお願いしています。この、双方向の評価システムによる互いのフィードバックから専門研修プログラムの改善を目指しています。そのために、専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する救急科専門研修プログラム管理委員会を置いています。

### ① 救急科専門研修プログラム管理委員会の役割

- 1) 研修プログラム管理委員会は、研修プログラム統括責任者、研修プログラム連携施設担当者および研修プログラム関連施設担当者等で構成され、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、研修プログラムの継続的改良を行っています。
- 2) 研修プログラム管理委員会では、専攻医および指導医から提出される指導記録フォーマットにもとづき専攻医および指導医に対して必要な助言を行っています。
- 3) 研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、研修プログラム統括責任者が修了の判定を行っています。

### ② プログラム統括責任者の役割等

- 1) 研修プログラムの立案・実行を行い、専攻医の指導に責任を負っています。
- 2) 専攻医の研修内容と修得状況を評価し、その資質を証明する書面を発行します。
- 3) プログラムの適切な運営を監視する義務と、必要な場合にプログラムの修正を行う権限を有しています。
- 4) 本研修プログラムのプログラム統括責任者は下記の基準を満たしています。
  - (1) 専門研修基幹施設北九州市立八幡病院の救命救急センター長であり、救急科の専門研修指導医です。
  - (2) 救急科専門医として、4回の更新を行い、30年以上の臨床経験があり、自施設で過去3年間に3名の救急科専門医を育てた指導経験を有しています。
  - (3) 救急医学に関する論文を筆頭著者として95編、共著者として188編を発表し、十分な研究経験と指導経験を有しています。
  - (4) 専攻医の人数が20人を超える場合には、プログラム統括責任者の資格を有する

救命救急センター副センター長を副プログラム責任者に置きます。

5) 本研修プログラムの指導医4名は日本専門医機構によって定められている下記の基準を満たしています。

- (1) 専門研修指導医は、専門医の資格を持ち、十分な診療経験を有しかつ教育指導能力を有する医師である。
- (2) 救急科医師として5年以上の経験を持つ救急科専門医であるか、少なくとも1回の更新を行っていること。
- (3) 救急医学に関する論文を筆頭者として少なくとも2編は発表していること。
- (4) 臨床研修指導医養成講習会もしくは日本救急医学会等の準備する指導医講習会を受講していること。

### ③ 基幹施設の役割

専門研修基幹施設は専門研修プログラムを管理し、当該プログラムに参加する専攻医、専門研修連携施設および専門研修関連施設を統括しています。以下がその役割です。

- 1) 専門研修基幹施設は研修環境を整備する責任を負っています。
- 2) 専門研修基幹施設は各専門研修施設が研修のどの領域を担当するかをプログラムに明示します。
- 3) 専門研修基幹施設は専門研修プログラムの修了判定を行います。”

### ④ 連携施設および関連施設の役割

専門研修連携施設は専門研修管理委員会を組織し、自施設における専門研修を管理します。また、専門研修連携施設および関連施設は参加する研修施設群の専門研修基幹施設の研修プログラム管理委員会に担当者を出して、専攻医および専門研修プログラムについての情報提供と情報共有を行います。

## 12. 専攻医の就業環境について

救急科領域の専門研修プログラムにおける研修施設の責任者は、専攻医のみなさんの適切な労働環境の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮いたします。

そのほか、労働安全、勤務条件等の骨子を以下に示します。



- ① 勤務時間は週に38.75時間を基本とします。
- ② 研修のために自発的に時間外勤務を行うことは考えられることではありますが心身の健康に支障をきたさないように自己管理してください。
- ③ 当直業務と夜間診療業務を区別し、それぞれに対応した給与規定に従って対価を支給します。
- ④ 当直業務あるいは夜間診療業務に対して適切なバックアップ体制を整えて負担を軽減いたします。
- ⑤ 過重な勤務とならないように適切に休日をとれることを保証します。
- ⑥ 各施設における給与規定を明示します。

### 13. 専門研修プログラムの評価と改善方法

#### ① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本専門医機構の救急科領域研修委員会が定める書式を用いて、専攻医のみなさんは年度末に「指導医に対する評価」と「プログラムに対する評価」を研修プログラム統括責任者に提出していただきます。専攻医のみなさんが指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないことを保証した上で、改善の要望を研修プログラム管理委員会に申し立てることができるようになっていきます。専門研修プログラムに対する疑義解釈等は、研修プログラム管理委員会に申し出ていただければお答えいたします。研修プログラム管理委員会への不服があれば、専門医機構の専門研修プログラム研修施設評価・認定部門に訴えることができます。

#### ② 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス研修プログラムの改善方策

- 1) 研修プログラム統括責任者は報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出し、管理委員会は研修プログラムの改善に生かします。
- 2) 管理委員会は専攻医からの指導医評価報告用紙をもとに指導医の教育能力を向上させるように支援します。
- 3) 管理委員会は専攻医による指導体制に対する評価報告を指導体制の改善に反映させます。

#### ③ 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

救急科領域の専門研修プログラムに対する監査・調査を受け入れて研修プログラムの向上に努めます。

- 1) 専門研修プログラムに対する専門医機構をはじめとした外部からの監査・調査に対して研修基幹施設責任者、研修連携施設責任者および研修関連施設責任者が対応します。
- 2) 専門研修の制度設計と専門医の資質の保証に対して、研修基幹施設責任者、研修連携施設責任者および研修関連施設責任者をはじめとする指導医は、プロフェッショナルとしての誇りと責任を基盤として自律的に対応します。
- 3) 他の専門研修施設群からの同僚評価によるサイトビジットをプログラムの質の客観的評価として重視します。

④ 北九州市立八幡病院救急科エキスパート研修プログラム連絡協議会

北九州市立八幡病院は複数の基本領域専門研修プログラムを擁しています。北九州市立八幡病院病院長、同病院内の各専門研修プログラム統括責任者、研修プログラム連携施設担当者および研修プログラム関連施設担当者からなる専門研修プログラム連絡協議会を設置し、北九州市立八幡病院における専攻医ならびに専攻医指導医の処遇、専門研修の環境整備等を定期的に協議します

⑤ 専攻医や指導医による日本専門医機構の救急科研修委員会への直接の報告

専攻医や指導医が専攻医指導施設や専門研修プログラムに大きな問題があると考えた場合（パワーハラスメントなどの人権問題も含む）、北九州市立八幡病院救急科エキスパート専門研修プログラム管理委員会を介さずに、直接下記の連絡先から日本専門医機構の救急科研修委員会に訴えることができます。

電話番号:03-3201-3930

e-mail アドレス:senmoni-kensyu@rondo.ocn.ne.jp

住所:〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-5-1 東京国際フォーラム D 棟 3 階

⑥ プログラムの更新のための審査

救急科専門研修プログラムは、日本専門医機構の救急科研修委員会によって、5年毎にプログラムの更新のための審査を受けています。

#### 14. 修了判定について

研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、専門医認定の申請年度(専門研修3年終了時あるいはそれ以後)に、知識・技能・態度に関わる目標の達成度を総括的に評価し総合的に修了判定を行います。修了判定には専攻医研修実績フォーマットに記載された経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術・処置等の全ての評価項目についての自己評価および指導医等による評価が研修カリキュラムに示す基準を満たす必要があります。

#### 15. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと

研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、知識、技能、態度それぞれについて評価を行います。専攻医は所定の様式を専門医認定申請年の4月末までに専門研修プログラム管理委員会に送付してください。専門研修PG管理委員会は5月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。

#### 16. 研修プログラムの施設群

##### ① 専門研修基幹施設

北九州市立八幡病院救急科が専門研修基幹施設です。

##### ② 専門研修連携施設・関連施設

北九州市立八幡病院救急科エキスパート研修プログラムの施設群を構成する連携病院および関連病院は、以下の診療実績基準を満たした施設です。

- 1) 北九州市立医療センター
- 2) 一般財団法人 平成紫川会 小倉記念病院
- 3) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院
- 4) 独立行政法人 労働者健康安全福祉機構 九州労災病院
- 5) 産業医科大学病院
- 6) 社会医療法人 陽明会 小波瀬病院

##### ③ 専門研修施設群

北九州市立八幡病院救急科と連携施設および関連施設により専門研修施設群を構成します。

#### ④ 専門研修施設群の地理的範囲

北九州市立八幡病院救急科エキスパート研修プログラムの専門研修施設群は、福岡県(北九州市立八幡病院、北九州市立医療センター、小倉記念病院、独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院、独立行政法人 労働者健康福祉機構 九州労災病院、産業医科大学病院、社会医療法人 陽明会 小波瀬病院)にあります。施設群の中には、地域中核病院が入っています。

### 17. 専攻医の受け入れ数について

全ての専攻医が十分な症例および手術・処置等を経験できることが保証できるように診療実績に基づいて専攻医受入数の上限を定めています。日本専門医機構の基準では、各研修施設群の指導医あたりの専攻医受入数の上限は1人/年とし、一人の指導医がある年度に指導を受け持つ専攻医数は3人以内となっています。また、研修施設群で経験できる症例の総数からも専攻医の受け入れ数の上限が決まっています。なお、過去3年間における研修施設群のそれぞれの施設の専攻医受入数を合計した平均の実績を考慮して、次年度はこれを著しく超えないようにとされています。

本研修プログラムの研修施設群の指導医数は、北九州市立八幡病院3+5/6名、産業医科大学1/6名の計4名なので、毎年、最大で4名の専攻医を受け入れることが出来ます。研修施設群の症例数は専攻医9人のための必要数を満たしており、余裕を持って経験を積んでいただけます。

過去3年間で、研修施設群全体で合計3名の救急科専門医を育ててきた実績も考慮して、毎年の専攻医受け入れ数は2名とさせていただきました。

### 18. サブスペシャルティ領域との連続性について

① サブスペシャルティ領域として予定されている外科、外傷外科、集中治療領域、小児科領域の専門研修について、北九州市立八幡病院における専門研修の中のクリティカルケア・重症患者に対する診療において外科、小児科領域の専門研修で経験すべき症例や手技、処置の一部を修得していただき、救急科専門医取得後の外科、集中治療領域、小児科領域研修で活かしていただけます。

② 外科領域専門研修施設や小児科領域研修施設を兼ねる救急領域専門研修施設では、救急科専門医の外科専門医、小児科専門医への連続的な育成を支援します。

## 19. 救急科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

救急科領域研修委員会で示される専門研修中の特別な事情への対処を以下に示します。

- ① 出産に伴う6ヶ月以内の休暇は、男女ともに1回までは研修期間として認めます。その際、出産を証明するものの添付が必要です。
- ② 疾病による休暇は6ヶ月まで研修期間として認めます。その際、診断書の添付が必要です。
- ③ 週20時間以上の短時間雇用の形態での研修は3年間のうち6ヶ月まで認めます。
- ④ 上記項目①,②,③に該当する専攻医の方は、その期間を除いた常勤での専攻医研修期間が通算2年半以上必要になります。
- ⑤ 大学院に所属しても十分な救急医療の臨床実績を保証できれば専門研修期間として認めます。ただし、留学、病棟勤務のない大学院の期間は研修期間として認められません。
- ⑥ 専門研修プログラムを移動することは、移動前・後のプログラム統括責任者および専門医機構の救急科領域研修委員会が認めれば可能とします。この際、移動前の研修を移動後の研修期間にカウントできます。
- ⑦ 専門研修プログラムとして定められているもの以外の研修を追加することは、プログラム統括責任者および専門医機構の救急科領域研修委員会が認めれば可能です。ただし、研修期間にカウントすることはできません。

## 20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

### ① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

計画的な研修推進、専攻医の研修修了判定、研修プログラムの評価・改善のために、専攻医研修実績フォーマットと指導記録フォーマットへの記載によって、専攻医の研修実績と評価を記録します。これらは基幹施設の研修プログラム管理委員会と日本救急医学会で5年間、記録・蓄積されます。

### ② 医師としての適性の評価

指導医のみならず、看護師を含んだ2名以上の多職種も含めた日常診療の観察評価により専攻医の人間性とプロフェッショナリズムについて、各年度の中間と終了時に専攻医研修マニュアルに示す項目の形成的評価を受けることとなります。

### ③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

研修プログラムの効果的運用のために、日本専門医機構の救急科領域研修委員会が準備する専攻医研修マニュアル<sup>※1</sup>、指導医マニュアル<sup>※2</sup>、専攻医研修実績フォーマット<sup>※3</sup>、指導記録フォーマットなど<sup>※45</sup>を整備しています。

※1 専攻医研修マニュアル:救急科専攻医研修マニュアルには以下の項目が含まれています。

- ・ 専門医資格取得のために必要な知識・技能・態度について
- ・ 経験すべき症例、手術、検査等の種類と数について
- ・ 自己評価と他者評価
- ・ 専門研修プログラムの修了要件
- ・ 専門医申請に必要な書類と提出方法
- ・ その他

※2 指導者マニュアル:救急科専攻医指導者マニュアルには以下の項目が含まれています。

- ・ 指導医の要件
- ・ 指導医として必要な教育法
- ・ 専攻医に対する評価法
- ・ その他

※3 専攻医研修実績記録フォーマット:診療実績の証明は専攻医研修実績フォーマットを使用して行います。

※4 指導医による指導とフィードバックの記録:専攻医に対する指導の証明は日本専門医機構の救急科領域研修委員会が定める指導医による指導記録フォーマットを使用して行います。

- ・ 専攻医は指導医・指導責任者のチェックを受けた専攻医研修実績フォーマットと指導記録フォーマットを専門研修プログラム管理委員会に提出します。
- ・ 書類作成時期は毎年10月末と3月末とします。書類提出時期は毎年11月(中間報告)と4月(年次報告)です。
- ・ 指導医による評価報告用紙はそのコピーを施設に保管し、原本を専門研修基幹施設の研修プログラム管理委員会に送付します。
- ・ 研修プログラム管理委員会では指導医による評価報告用紙の内容を次年度の研修内容に反映させます。

※<sup>5</sup> 指導者研修計画(FD)の実施記録:専門研修基幹施設の研修プログラム管理委員会は専門研修プログラムの改善のために、臨床研修指導医養成講習会もしくは日本救急医学会等の準備する指導医講習会への指導医の参加記録を保存しています。

## 21. 専攻医の採用と修了

### ① 採用方法

救急科領域の専門研修プログラムの専攻医採用方法を以下に示します。

- 1) 研修基幹施設の研修プログラム管理委員会は研修プログラムを毎年公表します。
- 2) 研修プログラムへの応募者は前年度の定められた9月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の様式の「研修プログラム応募申請書」および履歴書を提出して下さい。
- 3) 研修プログラム管理委員会は書面審査、および面接の上、採否を決定します。
- 4) 採否を決定後も、専攻医が定数に満たない場合、研修プログラム管理委員会は必要に応じて、随時、追加募集を行います。
- 5) 専攻医の採用は、他の全領域と同時に一定の時期で行います。

### ② 修了要件

専門医認定の申請年度(専門研修3年終了時あるいはそれ以後)に、知識・技能・態度に関わる目標の達成度を総括的に評価し総合的に修了判定を行います。

## 22. 応募方法と採用

### ① 応募資格

- 1) 日本国の医師免許を有すること
- 2) 臨床研修修了登録証を有すること(第98回以降の医師国家試験合格者のみ必要。平成30年(2018年)3月31日までに臨床研修を修了する見込みのある者を含む。)
- 3) 一般社団法人日本救急医学会の正会員であること(平成30年4月1日付で入会予定の者も含む。)
- 4) 応募期間:平成29年(2017年)5月1日から9月30日まで

### ② 選考方法

書類審査、面接により選考します。面接の日時・場所は別途通知します。

③ 応募書類

願書、希望調査票、履歴書、医師免許証の写し、臨床研修修了登録証の写し

④ 問い合わせ先および提出先

〒805-0061 福岡県北九州市八幡東区西本町四丁目18番1号

北九州市立八幡病院 事務局経営企画課 臨床研修担当

TEL:093-662-6565 FAX:093-662-1796

E-mail:byou-yahata-jimukyoku@city.kitakyushu.lg.jp